

11 特集 下

2018年(平成30年)3月5日(月曜日)

新潟日報 (日刊)

第3種郵便物認可

グローバルにいがた

from
パリ

岡田 麗花さん

=佐渡市出身=

「美食の国」と名高いフランスの、オーガニック事情について紹介します。私たち家族がパリに住み始めたのは2015年の夏でした。日本でも、自然農や有機農法など、環境と体を考慮した農業に着目する人が増え始めた頃かもしれません。パリへ行く前の私は、ママとして、薬剤師としてのことを考えていませんでした。方だったと思います。それでも、コンビニやスーパーのお惣菜などを手に取る品は「便利」であることを優先して選んでいました。

パリに住んで一番感じたのは、BIOと書かれたオーガニック商品の手に取りやすさです。日頃から食品の内容成分を気にしており、フランスでは商品一つ一つの成分表示を確認しています。ところが、陳列されている商品の成分表示の多くはフランス語、ドイツ語、スペイン語などで記載され、英語はほとんどありませんでした。

ふと見ると、同じ陳列棚にBIOのマークの付いた商品が並んでいます。BIO関連商品だけを陳列したコーナーや専門ショップもあります。

BIOのマークは「100%有機農法・加工法由来のもの、もしくは材料の95%以上が有機農法・加工法由来のもの」として、フランス農業省から認めています。BIOのものは、農薬を使わないことから大量に使われています。

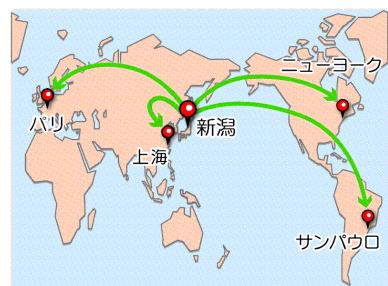
(岡田さんは1978年生まれ。昨年末に帰国し、奈良県在住。薬剤師として、農業を応援したいと思います。)

有機食品に意識高く



BIO食品が並ぶフランスの店頭

新潟日報社が開設した米ニューヨーク(NY)、ブラジル・サンパウロ、中国・上海、欧州(パリ)の国際交流拠点などを通じ、海外で暮らす本県関係者から現地の様子をリポートしてもらっています。また、新潟日報ホームページ「モア」にも掲載し、感想や意見を受け付けています。



第1月曜掲載

from
上海

伊藤 侑さん

=胎内市出身=

スマートフォンの電子マネーを使用して支払いをする様子

街のスーパーでスマートフォンの電子マネーを使用して支払いをする様子

伊藤さんは1989年生まれ。ブリヂストン上海オフィスで働いています。

流行に乗り遅れずに



上海に赴任して半年。街角ではあらゆる人がスマートフォン(スマホ)を慣れた手つきで駆使している。若者だけではなく、子供やお年寄りにまで普及していることに驚く。中国では飲食店、タクシー、レンタサイクルなどさまざまな決済で銀行口座と連動した電子マネーの支払いを嫌がられる現象での支払いを嫌がれることもしばしば。この動きが本格的に始まったのはせいぜい1年前後のことであるが、それを感じさせないほど当たり前の光景となっている。

そんな中国でスマートフォンが到來しているのが「スキ」である。「モノ」消費から「コト」消費への傾向の変化や、先づの平昌五輪、2022年に控える北京五輪が影響しているとみられる。スキ講師の危機感すら感じる。

from
サンパウロ

山内 淳さん

=元ブラジル日本文化福祉協会会長=

日本社会を代表する団体「ブラジル日本文化福祉協会」がこのほど、白寿者表彰式を行い、長年の苦労をたたえました。

2017年の表彰者は37人。その中に、上越市出身で1960年に渡航した清水九治さんの姿もありました。入植してからの苦労を思いながら、私の幼年時代を思い出しました。私の両親は30年にブラジルにて、35年に巴拉那州のある町に引っ越しました。町とは名ばかりで、バラック建ての家が何軒かあつただけ。そこからさらに原始林に分け入った所が私たちの土地でした。

まずは始めたのは住居作り。

周囲を伐採し、ヤシの木を割って庭園をつくって、そこで生活できるようになつてから、父はアラジル人の現地労働者を雇用して山焼きの火を入れました。ところが雨が多く、倒木が生焼けとなる。今シーズンは雪上車体験やスキーフィーリング等で、雪質やコースの工夫など、ゲレンデに対する要求も厳しいなってきている。

施設を日本国内の力所

ほど有するプリンスホテルズ&リゾーツでは、海外からのお客様

など、ゲレンデに対する要求も厳しくなってきている。

スキーフィーリング等で、雪質やコースの工夫など、ゲレンデに対する要求も厳しくなってきている。

スキーフィーリング等で、雪質やコースの工夫など、ゲレンデ